



自立へ！「這えば立て 立てば歩めの親心」

校長 佐藤 雅彦

ロンドン日本人学校の合言葉は、「自立・貢献・気品」ですが、小学部低・中学年児童にとっては少々難解な言葉かもしれません。例えば、自立については「自分でできるようになったこと」と言い換えて子どもたちに問うと、中学年の児童では「以前は手伝ってもらっていたことが自分の力でできるようになった」など、生活的自立に関するものが多く聞かれます。そして、高学年、中学生と学年が上がるにつれて、「自分の意志をもって行動できるようになる」など、精神的自立に関するものも増えてきます。特に、中学生になれば、「自分で計画して」という言葉が加わってくる場合もあるでしょう。何事も自ら工夫し、効果的な内容にしようと意識して取り組もうとする意志の表れです。

一方、保護者の皆さんに「お子さんが自分でできるようになってほしいこと」を尋ねた場合、どの学年においても生活的自立に関するものが多いのではないのでしょうか。小学生では自分で起床すること、自主的に勉強に取り組むこと、中学生では時間のけじめに関するものが多くあげられます。保護者の皆さんの多くは、基本的な生活習慣での自立がまだまだ不十分だと思ってしまうのかもしれませんが、また、高学年、中学生になると精神的自立に関する願いも多くあげられます。

それでは、生活的自立にしる、精神的自立にしる、子どもたちが自立できるようにするために、家庭や学校ではどんな関わり方をすればよいのでしょうか。

よく言われることとして、「待つ」があります。親や教師が口出しや手出しをせず、アドバイスはしても、最終的に自分でさせるのが大切だということです。また、その際には自分できちんとできたことについて褒めること、自分以外の人のためにした行為については、感謝を表すことです。子どもたちにとって「自分で」できるようになった喜びをもたせるように努めていくことが、自立をうながす上で、大人の

きな役割なのかもしれません。精神的な面については、「自分で考えさせる」ことを心がけるのが重要でしょう。私たち教職員も、教育活動の中で、子どもたちが自分で判断し、決断する機会を多く与えることを意識しています。それが、精神的自立を目指す上で大切だと考えるからです。子どもたちにとっては、家庭は心と身体を休める場でもあるわけですから、甘えがあつて当然です。しかし、いろいろな工夫や対応の仕方、自分でできるように支え、その様子を見守っていきながら、徐々に手を放していくことが肝要なのだと思います。

3月14日(火)は、卒業式

卒業式とは、各校種における教育課程を修了したことを認定し、卒業証書を授与することで門出を祝う式典です。本校では6年間の小学校課程を修了する6年生と、義務教育修了となる中学部3年生の式を合同で挙ります。

私は小中学校両校種の校長歴がありますが、小中を比較するといくつかの違いがあります。まず、小学校では分かりやすい言い回しや明るい音楽を流し、手作り感のある装飾で式場が飾られるのに対して、中学校は儀式的要素が強く言葉遣いや所作などにも厳格さを求めます。また小学校の「別れの言葉」には卒業への意識、6年間の思い出、在校生より、在校生へ、感謝の言葉、旅立ちの決意といった流れがあり個人や集団で呼びかけていくスタイルです。中学校は、在校生の送辞と歌に続き、卒業生の答辞と歌という形式が多く、年齢や教育課程が異なると式にも違いがあることを感じます。このようなことから、本校の式は、両校種のよさが融合された素晴らしいものになることでしょう。保護者の皆様方にも、卒業生の無限の可能性と輝く前途を祝していただくと幸いです。

2月の行事(学校公式ブログ等より)

<2月1日 幼稚園との交流(小1)>

1年生は、幼稚園児から見て、お兄さん・お姉さんであることを意識して、学校を案内し、一緒に遊んであげていました。



<2月6日~10日 英語授業参観(高学年)>

日本の小学校4年生の外国語活動は、通常、週1時間、年間35時間で実施されていますが、本校では、週3時間、年間105時間の英会話学習として実施されています。児童は学びを通して、英語の音声や表現に慣れ親しみ、指導者や友だちとコミュニケーションを図る体験を積み重ねています。



<2月10日 校外学習(小3)>

博物館見学を通して、英国の人々の生活の変化について調べることを目的に、Gunnersbury Park & Museum を3年生児童が訪れました。昔の道具や服装、生活の様子展示を見学し、台所体験を行うなど、大変有意義な学びとなりました。



<2月13日~17日 校長面接(中2)>

面接の評価は、それぞれの問いに対する話の内容を中心に、入室の態度・姿勢、声量、言葉遣い、表情・視線といった観点で行いました。皆、真剣です。



<2月15日 SOAS ロンドン大学との交流(中学部)>

活動2ではグループ内で互いに自己紹介をした後、千代紙を使った『紋切り』を行いました。とても美しい作品が出来上がり、ラミネートしてSOASの皆さんにお土産として持ち帰っていただきました。



<2月22日 感謝の集い(小6)>

日頃感じている家族への感謝の気持ちを伝えるとともに、保護者の皆さんに、自分たちの成長ぶりや頑張りを知ってもらう機会となりました。



<2月24日 6年生を送る会(小学部)>

本校小学部課程を修了して卒業していく6年生に対して、1年生~5年生からたくさんの感謝の気持ちが伝えられました。一緒に歌い、踊る様子からは、下級生を想う6年生の優しさと、次を受け継ぐ5年生の自覚が感じられました。



令和4年度末帰任の先生方

○ 森下 理香 教頭先生

○ 椿 智美 先生(中2A学級担任)

○ 林 美佳 先生(小3A学級担任)

○ 白谷 祐史 先生(中1A学級担任)

○ 樋口 友香 先生(小2B学級担任)

年度末異動により、5名の先生方が3年間の任期を終えてご帰国になります。

